

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	山内 毅
主な担当科目	舞台音響演習
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	<ol style="list-style-type: none">1) 舞台監督専任教員不在に対する円滑な授業運営。2) 基礎学力を向上させ、学生のレベル差に対応できる授業の工夫。3) コロナ禍における授業運営の効率化。
2022年の教育に関する自己評価	<ol style="list-style-type: none">1) 非常勤講師のスケジュール管理を常に更新し、協力体制をある程度維持できた。非常勤講師不在時の授業を臨時で担当した。2) やる気のある学生が中心となって学生全体をまとめてくれたことが幸いした。3) 学生、教員共にコロナ禍の生活に慣れたこともあり、日常的な対策で問題なくなっている。
2022年のFD活動に関する自己評価	全てのFD研修会に参加した。積極的に関わり、学内組織FD研修会では主査として議事進行を務めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	前期授業の感想や改善点などを話しあった。 舞台監督専任不在による対応策の検討を重ねた。

科目名-クラス名

舞台音響演習

L

曜日時限

月 4時限

月 5時限

担当教員

山内 毅

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	前期	2	評価割合	80	0	0	10	10	100

教育到達目標と概要

舞台音響の基礎を解説し、実際の機材で操作の基本を身につけ、公演実習に対応できる基礎を養うことを目標とする。具体的には、音響機器の基礎的な取り扱い方法、基本セッティング及び基本操作を修得する。また、そのために必要な音響の基礎知識も修得する。

学修成果

履修者はマイクロフォン1本による朗読のPAや、マイクロフォン数本を使った楽器や歌のPAを制作体験することで、音の基礎、電気の基礎、機材の基礎、仕込み図作成やセッティングの基礎、オペレーターの基礎を理解できるようになる。舞台機構調整技能検定（国家資格）3級に合格するための基礎が身につく。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス / 機材保管場所確認 / スピーカスタンドの立て方、スピーカ置台、スピーカ吊具 / ケーブルの種類 / 北校舎第6スタジオ(3階)に集合
- 第2回 小テスト / 8の字巻き / マイクスタンドの取扱い(変換ネジ) / 各機器の働き / テスターの使い方、電源入切、信号の流れ / ケーブル敷設
- 第3回 小テスト / マイクロフォンの種類と構造、指向性、ファンタム電源 / ダイナミックスピーカの構造 / 小型スピーカのスタンド設置
- 第4回 小テスト / アナログ調整卓の基礎、接続、マイクレベル・ラインレベル、レベルの取り方、回線チェック方法、センター定位、位相
- 第5回 小テスト / デジタルの基礎 / デジタル卓の基本操作 (パッチ、アサイン) / 銘板 / バレエWSの仕込み図を読む
- 第6回 小テスト / デジタル卓の操作 (Rio使用) / ネットワークオーディオ / 周波数特性、ダイナミックレンジ、S/N比、歪み
- 第7回 小テスト / リリエのパッチ盤 / マルチボックス、AUX、FBスピーカ追加 / ワイヤレスマイクロフォン / ラッシング
- 第8回 小テスト / デジタル卓の操作 (イコライザ、エフェクタ、センズオン、DCA) / Live9 / ProTools / オームの法則、合成抵抗 / 「朗読のPA」の仕込み図作成
- 第9回 小テスト / 「朗読のPA」 (リハーサル) / D.I. / 「楽器のPA」の仕込み図等作成 / JPショウケースの仕込み図を読む
- 第10回 「朗読のPA」 (本番) / ミュージカル3年成果発表会の仕込み図を読む
- 第11回 「楽器のPA」仕込み図作成
- 第12回 ミュージカル3年成果発表会参加 各音の調整
- 第13回 「楽器のPA」仕込みと調整
- 第14回 ミュージカル4年成果発表会参加 各音の調整
- 第15回 「楽器のPA」リハーサル・本番
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

動きやすい服装で臨むこと。革手袋（軍手不可）を持参(初回授業にて説明)すること。実習はグループ単位で作業します。個々が積極的に動くことが重要です。分からないことはそのままにせず、必ず質問してください。ポケットサイズのメモ用紙を必ず持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- 音響を学ぶ上で、理論、法則や公式は重要です。学修したことは自宅で復習するよう心掛けてください。（60分/週）
 - 8の字巻き(ケーブルの巻き方)は、音響実技の基本です。早くきれいに巻けるよう自宅でも練習してください。（15分/週）
 - 理論等は、舞台スタッフ論で学修したことの積み上げです。舞台スタッフ論の内容を復習しておいてください。（60分/週）
 - 指定した日程の授業の最初に前回学修した範囲の小テストを行います。フィードバックは小テスト返却時および各授業の終了時に行う。
 - 「朗読のPA」「楽器のP
-

教科書・参考書

教科書：八坂賢二郎 『改訂版 サウンドバイブルーThe Theatrical Sound Engineer's Bible 劇場音響技術者教書』（兼六館出版）

科目名－クラス名

舞台音響演習

R

曜日時限

担当教員

月 2時限

山内 毅

月 3時限

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	前期	2	評価割合	80	0	0	10	10	100

教育到達目標と概要

舞台音響の基礎を解説し、実際の機材で操作の基本を身につけ、公演実習に対応できる基礎を養うことを目標とする。具体的には、音響機器の基礎的な取り扱い方法、基本セッティング及び基本操作を修得する。また、そのために必要な音響の基礎知識も修得する。

学修成果

履修者はマイクロフォン1本による朗読のPAや、マイクロフォン数本を使った楽器や歌のPAを制作体験することで、音の基礎、電気の基礎、機材の基礎、仕込み図作成やセッティングの基礎、オペレーターの基礎を理解できるようになる。舞台機構調整技能検定（国家資格）3級に合格するための基礎が身につく。

授業展開と内容

- 第1回 ガイダンス / 機材保管場所確認 / スピーカスタンドの立て方、スピーカ置台、スピーカ吊具 / ケーブルの種類 / 北校舎第6スタジオ(3階)に集合
- 第2回 小テスト / 8の字巻き / マイクスタンドの取扱い(変換ネジ) / 各機器の働き / テスターの使い方、電源入切、信号の流れ / ケーブル敷設
- 第3回 小テスト / マイクロフォンの種類と構造、指向性、ファンタム電源 / ダイナミックスピーカの構造 / 小型スピーカのスタンド設置
- 第4回 小テスト / アナログ調整卓の基礎、接続、マイクレベル・ラインレベル、レベルの取り方、回線チェック方法、センター定位、位相
- 第5回 小テスト / デジタルの基礎 / デジタル卓の基本操作 (パッチ、アサイン) / 銘板 / バレエWSの仕込み図を読む
- 第6回 小テスト / デジタル卓の操作 (Rio使用) / ネットワークオーディオ / 周波数特性、ダイナミックレンジ、S/N比、歪み
- 第7回 小テスト / リリエのパッチ盤 / マルチボックス、AUX、FBスピーカ追加 / ワイヤレスマイクロフォン / ラッシング
- 第8回 小テスト / デジタル卓の操作 (イコライザ、エフェクタ、センズオン、DCA) / Live9 / ProTools / オームの法則、合成抵抗 / 「朗読のPA」の仕込み図作成
- 第9回 小テスト / 「朗読のPA」 (リハーサル) / D.I. / 「楽器のPA」の仕込み図等作成 / JPショウケースの仕込み図を読む
- 第10回 「朗読のPA」 (本番) / ミュージカル3年成果発表会の仕込み図を読む
- 第11回 「楽器のPA」仕込み図作成
- 第12回 ミュージカル3年成果発表会参加 各音の調整
- 第13回 「楽器のPA」仕込みと調整
- 第14回 ミュージカル4年成果発表会参加 各音の調整
- 第15回 「楽器のPA」リハーサル・本番
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

動きやすい服装で臨むこと。革手袋（軍手不可）を持参(初回授業にて説明)すること。実習はグループ単位で作業します。個々が積極的に動くことが重要です。分からないことはそのままにせず、必ず質問してください。ポケットサイズのメモ用紙を必ず持参すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- 音響を学ぶ上で、理論、法則や公式は重要です。学修したことは自宅で復習するよう心掛けてください。（60分/週）
 - 8の字巻き(ケーブルの巻き方)は、音響実技の基本です。早くきれいに巻けるよう自宅でも練習してください。（15分/週）
 - 理論等は、舞台スタッフ論で学修したことの積み上げです。舞台スタッフ論の内容を復習しておいてください。（60分/週）
 - 指定した日程の授業の最初に前回学修した範囲の小テストを行います。フィードバックは小テスト返却時および各授業の終了時に行う。
 - 「朗読のPA」「楽器のP
-

教科書・参考書

教科書：八坂賢二郎 『改訂版 サウンドバイブルーThe Theatrical Sound Engineer's Bible 劇場音響技術者教書』（兼六館出版）

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2094 教員名：山内 毅

1) 評価結果に対する所見

(ア)「舞台芸術実習①②③」(音響)について

①：興味深く参加していることがうかがえる。／自由記述：多様な背景の学生にダブルスタンダードを避けながら、どこまで配慮すべきか悩ましい。

③：やる気のある学生へ対応不足が見て取れる。／自由記述なし。

(イ)「公演実習Ⅱ／Ⅲ／Ⅳ」(音響)について

おおむね満足度が高い。自由記述なし。

(ウ)「卒業制作作品研究」について

不満が多く、科目への拒否感が強いことが、データからも、自由記述からも見て取れる。

(エ)「録音制作Ⅱ」について

満足度が平均以下である。／自由記述なし。

2) 要望への対応・改善方策

(ア)「舞台芸術実習①②③」(音響)について

将来、業界へ進まない学生への配慮について工夫する。

(イ)「公演実習Ⅱ／Ⅲ／Ⅳ」(音響)について

社会へ出てからの応用力を養えるような授業内容を引き続きめざしたい。やる気のある学生へ応えられる工夫をしたい。カットアンドトライは自主練習の中で見いだすことを促したい。

(ウ)「卒業制作作品研究」について

Semester制導入に向けて、科目の在り方を再検討する。

(エ)「録音制作Ⅱ」について

科目で行っている内容の重要性を理解してもらう。

3) 今後の課題

(ア)「舞台芸術実習①②③」(音響)について

もっと実習を行いたい学生と、そうでない学生の差が著しい。引き続き要件等。

(イ)「公演実習Ⅱ／Ⅲ／Ⅳ」(音響)について

失敗しないための正解を求める傾向にある。

(ウ)「卒業制作作品研究」について

科目の必要性がなかなか伝わらない。引き続き夏休みの活用を促す。

(エ)「録音制作Ⅱ」について

シラバスの内容を十分伝える必要がある。

以 上